

（１）大学・学科の設置理念

①大学

広島大学は、基本理念として、平和を希求する精神、新たなる知の創造、豊かな人間性を培う教育、地域社会・国際社会との共存、絶えざる自己変革の5原則を掲げており、教養教育・専門教育を通じて、学生が基礎的な知識と情報活用力を備え、本質を把握する力を養うことを目指している。そして、広島大学は、大学の重要な使命である人材育成を通じた社会貢献を果たすために、基礎力と応用力を兼ね備えた柔軟性に富む人材を社会に送り出すことにより、地域社会や国際社会と緊密な連携を構築し、多様な社会的ニーズに的確に対応する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【工学部第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）】

広島大学は日本有数の化学コンビナートを有する中国・四国地区の中心的大学として、化学をバックグラウンドにもつ高度専門技術者・研究開発人材育成が期待されている。工学部第三類では、化学を共通基盤科目として、化学(応用化学)、バイオ(生物工学)、プロセス(化学工学)の3つの専門分野を効果的に統合した教育・研究を行うことにより、化学物質の構造・性質の理解と高度な機能を持つ物質・材料の開発、微生物・植物・動物の多様な機能を利用したバイオテクノロジー、環境・資源・エネルギーに配慮した化学プロセスの開発・設計等を含む、幅広い知識を有し、多方面で活躍できる人材を育成する。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

本学では、未来を担う人間を育てる営為である教育の多様な問題を、理論と実践の統合という視点から学際的・総合的に探究するとともに、学校教育や学習社会づくりに貢献できる、幅広い社会的視野と豊かな課題探究力を有する人材を育成する。

学士課程では、「教員養成広大スタンダード」を策定し、児童・生徒を理解する教職の力、教育内容を基礎づける科学や文化を解明する教科の力、そしてその両者をつなぎ学習者の視点から授業を紡ぎ出す教科教育の力を、育成すべき教員の資質・能力として位置づけ、授業力、学級・学校経営力などの高度な資質・能力を身に付け、複雑多様な教育課題に対応できる教員を育成する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【工学部第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）】

資源やエネルギーが乏しい我が国が世界最高水準の工業国としての地位を維持するためには、環境と健康に配慮した高機能・高付加価値の化学製品を開発するための基盤技術、および高効率製造プロセスの開発を推進しなければならない。そのためには、地球温暖化をはじめとする環境・エネルギー問題等の人類が直面している難問を解決し、高度なレベルで持続可能な低炭素社会を実現し、安全・安心な生活を充実するために必要とされる技術を開発できる俯瞰的視野を有した人材の育成が重要である。こうした状況を踏まえ、第三類では、応用化学、生物工学、化学工学の3つのプログラムを有機的に統合した教育体制により、2年次前期終了時までには3プログラム共通のカリキュラムによって物理学・化学・生物学・地学の基礎を幅広く修得し、2年次後期からは各専門分野の最先端の知識と技術を修得する。これにより、地球規模の様々な課題を解決するための新しい時代の理科教育に必要な知識と熱意を有する教員を養成する。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【工学部第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）】（高一種免（理科））

地球温暖化をはじめとする環境・エネルギー・食料等の問題が深刻化している現在、高度なレベルで科学技術の発展に寄与し、工業の革新によって持続可能な低炭素社会を実現することに貢献できる研究者・技術者の育成が急務となっている。このためには高等学校の理科の教育において単に理科の基礎的知識を教えるだけでなく、工学系の大学で修得した人・社会・自然と工学との関わりに対する多面的な構想力や、専門知識を基礎とした論理的思考力と創造的応用力を持って、生徒の知的好奇心と社会貢献意欲を醸成することができる教員の育成が必要である。

第三類では応用化学、生物工学、化学工学の3つの専門分野を有機的に統合した教育を行っている。応用化学プログラムでは、地球環境に調和した材料の開発という社会的要請の下で、物質の分子レベルでの設計・解析を行い、新しい機能性物質や新エネルギーの創製に必要な専門知識を修得できる。生物工学プログラムでは、生命の仕組みに関する基礎的知識から、最先端バイオテクノロジーに至る多彩な分野の知識と技術を体系的かつ有機的に連携して修得できる。化学工学プログラムでは、物質・エネルギー変換をミクロな視点で物理・化学的に解析し、製造プロセス全体に対する資源、エネルギー、製造効率、品質、安全性、環境負荷などをグローバルな視野で捉えるための専門知識を習得できる。これらのプログラムは、化学を主要かつ共通の学問としつつ、生物および物理学の学問も大幅に取り入れることで様々な範囲に対象を拡大させている。特に、2年次前期終了時までは第三類共通のカリキュラムによって教養教育および専門基礎教育を行うことで化学・生物学・物理学等の基礎知識を修得し、2年次後期からはいずれかのプログラムで最先端の専門知識と様々な能力を修得する。このように、本課程の授業科目の内容は教育職員免許法に定める教科（高一種免（理科））の科目に相当するだけでなく、第三類は化学を基礎とする幅広い分野の研究者・技術者及びその教育者を養成する課程としても最適なものである。

- (1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

様式第7号イ

- ・本学の取組として、大学の教職科目を担当する教育学部において、広島県教育委員会、広島市教育委員会及び東広島市教育委員会と覚書をそれぞれ締結し、共同研究や教育フォーラムを通じて交流を図っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	フレンドシップ事業
連携先との調整方法：	学外委員で構成する運営会議を年2回開催している。
具体的な内容：	毎月1回土曜日に東広島市の小学生を対象としたフレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」を開催

②

取組名称：	教職インターンシップ事業
連携先との調整方法：	広島大学教育学部教育実習委員会と東広島市教育委員会との間で適宜、調整を行っている。
具体的な内容：	教員採用試験合格者等を対象に、東広島市の小学校及び中学校において授業や学校行事等への参加及び教師の行う業務のアシスタントなどを体験する。

Ⅲ. 教職指導の状況

教育学部教育実習連絡協議会において、広島大学附属学校で受け入れた実習生の評価、実習生からのアンケート評価を基に、改善点等が検討され次回実施計画への改善が図られている。

また、教育実習中に大学の教員が実習校を訪問して学生の様子を観察したり、授業の検討会・反省会に参加して、各教科の指導法や教職科目において必要な指導方法について、大学と実習校の双方で意見交換と検討が行われている。

様式第7号ウ

<工学部第三類> (認定課程: 高等学校 理科)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教養教育において専門領域における研究を行うために必要な外国語能力や幅広い分野の基礎学力を身につけている。
	後期	・教養教育において様々な分野の研究の方法・成果・課題を学習して、専門研究に活用できる視点を養う。 ・各専門分野の基礎科目を通じて理科(物理学・化学・生物学・地学)に関する基本的な知識を理解している。
2年次	前期	・理科(物理学・化学・生物学・地学)及び工学(応用化学・生物工学・化学工学)に対する幅広い基礎学力と専門知識を習得している。 ・学習や発達に関する理解を統合した指導計画を立案することができる。
	後期	・工学(応用化学・生物工学・化学工学)のそれぞれの専門分野に関する基本的な知識と方法論を習得している。 ・学習や発達に関する理解を統合した指導計画を立案することができる。
3年次	前期	・工学(応用化学・生物工学・化学工学)のそれぞれの専門分野に関する原著論文の読解力、研究調査能力、研究の方法、実験結果を論理的に分析し考察する能力を習得している。 ・工学(応用化学・生物工学・化学工学)のそれぞれの専門分野における論文解釈に必要な外国語の理解と表現力を培うとともに日本語の表現力も高めている。 ・生徒を理解し、信頼的な関係を築いて指導することができる。 ・学級経営などを理解している。
	後期	・工学(応用化学・生物工学・化学工学)のそれぞれの専門分野の理解に際して、論理的な思考力を身につけて、自分の実験結果を発表できる論文作成能力・プレゼンテーション能力を習得している。 ・生徒を理解し、信頼的な関係を築いて指導することができる。 ・学級経営などを理解している。
4年次	前期	・卒業論文の作成を通じて工学(応用化学・生物工学・化学工学)のそれぞれの専門分野の諸問題を複眼的に考察する力を習得している。 ・各専門領域における基礎的研究を深化させるとともに、現代社会に対する鋭い問題意識を持って、新たな研究領域や学際領域も積極的に開拓できる。 ・教育実習を通じて教育の実践能力を身につけている。
	後期	・卒業論文の作成を通じて工学(応用化学・生物工学・化学工学)に関する自らの課題を設定し、問題を解決する能力を習得している。 ・さらに、従来の研究成果を踏まえて、独創性を発揮するための基本的技能を習得している。

様式第7号ウ（教諭）

<工学部第三類>（認定課程：高等学校 理科）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期		一般力学Ⅰ		コミュニケーションⅠA	
					コミュニケーションⅠB	
					情報・データ科学入門	
	前期又は後期				日本国憲法	
					健康スポーツ科学	
	後期		一般力学Ⅱ	基礎有機化学Ⅱ	コミュニケーションⅡA	
			基礎有機化学Ⅰ		コミュニケーションⅡB	
			基礎無機化学			
			基礎生命科学			
			地球科学B			
2年次	前期	自然システム(理科)教育法Ⅰ	分析化学			
		教職入門	物理化学Ⅰ			
		教育の思想と原理	生物化学Ⅰ			
	後期	自然システム(理科)教育法Ⅱ	基礎化学実験	物理化学Ⅱ		
		教育と社会・制度				
		生徒・進路指導論				
		教育方法・技術論及び情報活用教育論				
	集中	特別活動指導法				
3年次	前期	特別支援教育	無機化学			
		教育課程論				
	後期	教育実習指導C				
	集中	児童・青年期発達論				
		総合的な学習の時間の指導法				
4年次	前期	中・高等学校教育実習Ⅱ				
	後期	教職実践演習(中・高)				